

おわりのことば

特殊教育から特別支援教育になり、障害の種類と程度に対応した教育から、一人一人のニーズに対応した教育へと変わり4年が過ぎました。特別支援学校の指導要領も2年前に改訂され一人一人に応じた指導の充実を目的に各教科にわたる個別の指導計画の作成と、生活全般を継続的に見ていく個別の教育支援計画の策定が示されました。

このような情勢の中、本校が大切にしてきた目の前の子どもたちから学ぶという教育を、「一人一人のニーズを読み取り育てる取り組み」のテーマのもと3年計画で実践研究を積み重ねてまいりました。

初年度からICF（国際生活機能分類）の基本的な考え方「障害があるために困難である点に注目するのではなく、子どもが持つプラス面から見るように障害を捉えなおし、子どもの主体的なニーズにより潜在的な能力が発揮できるようにする」を日々の授業に取り入れ実践を進めてきました。

その実践を通して目標設定の視点、子どもの見方、子どもを活かす授業の在り方、主体的な行動を増やす手だてなど、自己実現に向けた支援の在り方を私たち教師が学び、教育観にも大きな影響をあたえました。

今年度の小学部児童の事例から、読むことは問題ないが、書くこと、計算の学習を苦手とする児童が、机上の学習はなかなか難しいということがありました。「ガンプラ（ガンダムのプラスチックモデル）を作りたい」という本人のニーズに基づいて、教師が子どもの内面世界を読み取り支える支援をしていく中、意欲をもって説明書を読み、ニッパーを扱い、ほぼ自力で組み立て完成させることができ、本人の自信につながり机上での学習にも良い影響をあたえたと言う報告がありました。これがまさしく私たちの教育観をふまえた事例の一つだと思います。

また、教育観の変化に伴い個別の教育支援計画、指導計画の書式を見直し日常的に使い易い形式になるよう実践を進めてきました。

今年度の研究は3年計画の最終年に入り、各学部では実践の積み重ねの成果を発表させていただきますが、まだ不十分な点が多々あると思います。今後の本校の発展のためにも皆様からの忌憚のないご指導、ご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、金沢大学の先生方には、3年間通して研究協力者としての確なご指導ご助言を頂いたことを心より感謝申し上げます。

副校長 今井康弘

研究同人

研究協力者

小学部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	教授	吉川	一義	氏
中学部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	准教授	武居	渡	氏
高等部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	准教授	河合	隆平	氏

校長	酒	寄	淳	史
副校長	今	井	康	弘
主幹教諭	山	本		仁

小学部	山	田	富	美
	木	下	由	起
	岡	部	亜	希子
	山	田	哲	男
	柳	生	美	由季
	竹	下	規	美代
	三	宅	和	憲
	竹	内	里	保香
	東	田	幸	江 (講)

高等部	下	野	令	子
	村	瀬	真	理子
	吉	藤	篤	史
	村	野	智	康
	北	瀨	理	美
	村	瀬	真	理子
	鍛	治		誠
	伊	藤	久	美子
	小	足	進	午
	鶴	尾	千	亜紀 (講)
	中	谷	至	子 (講)

中学部	神	谷	みつ	江
	福	田	貴	子
	新	保	利	久 (研究主任)
	田	村	吉	治
	吉	田	華	恵美
	橋	本	直	紀
	中	村	由	美子
	戸	谷		茂
	尾	山	登	志子 (講)

自立活動	近	藤	明	子
養護教諭	西	田	志	伸
栄養教諭	寺	口	真	弓

旧同人	山	岸	雅	子
	吉	川		開
	今	川	陽	子
	荻	野	稔	朗
	浦		宏	和 (講)